

SS 発展探究課題研究発表会・SS 部研究発表会 報告

◇ 期 日 令和4年1月28日(金) 5・6限

◇ 場 所 第一体育館

◇ 参加者 2年探究科学科生徒、1年探究科学科生徒、SS 部員、富山大学の先生方、本校教職員

1月28日(金)に行われたSS 発展探究課題研究発表会・SS 部研究発表会は、2年探究科学科生徒及びSS 部員が長く努力してきた研究活動の集大成となる発表会であった。今年度も新型コロナウイルスの影響があったが、保護者や県内高校教員を招いて、適切な感染対策のもと実施された。

発表は三校合同発表会同様、ポスターセッション形式で行われた。発表者が熱心に研究内容を伝えている姿と、聞き手が積極的に質問をしている様子が見られた。三密を意識しつつも、発表者と聞き手とが活発に意見交換する姿に中部高校らしさを感じた。また、発表の内容も実に多彩であり、自分たちの興味を掘り下げて一途に研究に取り組んだもの、現代日本の社会問題に切り込んだものなど、聞き手の耳目を驚かす発表が多々見られた。

課題研究を指導いただいた大学の先生方からも、たくさん質問をしていたいただき、ありがたかった。中には、課題研究の核心を突く厳しい質問もあったが、それによって研究への理解をより深めることができた。

1年生も、来年度に取り組む「発展探究」のテーマ選びや発表の仕方を参考としようと、皆真剣に発表会に臨んでいた。

研究の大きな節目ということで、探究活動全般に関して振り返ってみたい。

そもそも最初のテーマ決めから難しかった。1年間の探究活動で扱うのにふさわしいテーマや、研究対象の絞り込みが重要な鍵だと痛感した。仮説を立てる際も、先行研究を踏まえ、課題に対して意義ある仮説を設定するのに苦労した。いざ研究を始めても望むような結果が出ず、追加実験をしても上手くいかないという壁にぶつかることもあった。それでも何とか結果をまとめ、ポスターを作り発表の段階までこぎつけることができた。しかし発表してみると、鋭い質問が飛んできて返答に困るなど最後まで気が抜けなかった。

講評で大学の先生が「私たちでも実験の成功確率は1～2割です」という旨のことをお話されていた。研究のプロの先生であっても成功するのは難しい。それなのに研究の初心者である私たちが初めての研究で最初から成功することはまずあってあり得ないだろう。私たちはその失敗を糧にしてより良い研究を目指すべきではないだろうか。何事も失敗を恐れず、積極的に取り組んでいきたいと思う。

今回の課題研究を通して様々な刺激を受け、他では得難い経験をした。この経験を自信につなげ、今後の研究に生かしていきたい。

(26H 前林 記)

